

《生きがいを持って、元気にイエス様に耳を傾けましょう》

おはようございます。

1860年に生まれ1961年に死亡したアメリカのある画家の話を紹介します。その画家はメアリー・ロバートソンという女性です。彼女が有名になったのは79歳のころですが、そもそも彼女が絵を描き始めたのは78歳の時でした。しかも右手が関節炎で使えず、彼女は左手で絵を描きます。彼女の絵が村の人々によってあちこちに展示されたことにより、芸術品の収集家の目に留まりアメリカ全土に知れ渡る事になったのです。彼女の描いた絵は自分が住んでいる田舎の風景とか、子供達があそんでいる姿、畑で仕事をする人々の姿とか素朴なものだったのです。ある収集家がそれらの絵を見て描いた人はどんな人かと思い彼女を訪ねました。彼女に会ってみたら、右手はほとんど使えなくなりましたが左手で描いているその姿を見て、彼は記事を書きそれと共に絵の写真を撮って知らせたのです。それによってアメリカの人々に彼女の事が知れ渡り、彼女の絵は専門家がその目を持って見てもこれは素晴らしいと認められ、その時から亡くなる101歳まで筆を離せなかったそうです。彼女が亡くなる1年前の100歳のときに話したのは「人生は自分がどのような心を持つかによって変わります」ということです。これは名言となってアメリカの画家協会に残っているそうです。

私が今日何故この様な話をしているかと思われるでしょうが、一つは皆様にご自分の歳をどのように意識しているか尋ねたいのです。

さあ、78歳で描き始め画家と言われた彼女の姿を私達も倣うべきだと思います。皆様、私達は歳をとっていると客観的に言われても、「私は歳をとってしまった」と言う思いをたまには避けてもらいたいです。皆様、還暦という言葉をよく御存知だと思います。では70歳は何と言います？

“こき” といいますよね。そしたら、漢字でどのように書きますか。今は“古希”と書くんですが、元の字は“古稀”です。そして、この“稀”は“まれだ”“ごく少ない”という意味を持っています。というのは昔は70歳まで生きるのが本当に稀に珍しかったのを示しています。もう直ぐ敬老の日がきますが、そのお祝いを何歳の人を対象にするか迷うほどになったのが今の時代です。社会学の専門家によると“日本の社会は一番高齢化されているかも知れないが一番若く生きている国”だそうです。うちの教会(太田教会)の現役は何歳代だと思います？65歳~75歳です。これは素晴らしい事です。お年寄りの少ない国では多分60歳ぐらいになったら自分は歳をとってしまったと思って、やる気を失ってしまうと思います。私達はそういう面では恵まれていると思います。このような意味で「もう遅い歳をとってしまった」と考えないで活気を持って何でもなさって下さい。

二番目に分かち合いたいことは、私たちは神様に耳を傾け、答えているのかに付いてです。

『笛を吹いたのに、踊ってくれなかった。葬式の歌をうたったのに、泣いてくれなかった。』

(ルカ7:32)という箇所が今日の福音として読まれました。これはイエス様が2000年前イスラエル人の様子を見て、メシアであり救い主である自分が来たのに、また多くの預言者が来て色々述べ伝えたにもかかわらず、何故聞いてくれないかと苦しい心を表した言葉です。

さあ、今の時代に戻りましょうか。今神様が私達の様子を見て、振る舞いを見て、心を見てどのような表現をなさるのでしょうか。イエス様が笛を吹いています。私達はちゃんと踊っていると言えますか？イエス様が一緒に悲しく思って助け合ってほしいと叫んでいる時に私達は泣いているのでしょ

うか。実際このような質問は時代とは関係ないと思います。私達がイエス様の笛に合わせて踊っているのか、イエス様の御言葉に従っているのか、それをいつも見ようとする心が信仰ではないかと思えます。皆様、今日のテーマは二つでした。一つは元気に行きましょう。二つ目はいつもイエス様に耳を傾けましょう。

ありがとうございました。